

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願ひ致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円~ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願ひ致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願ひ致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願ひ致します。

COOP-JOSO News Letter

2021年10月1回号 発行:常総生協広報G

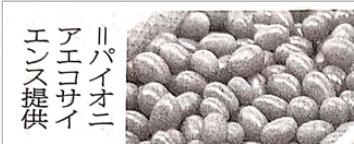


2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

ゲノム編集トマト9/15インターネットで一般販売開始！ 私たちの食選力が試される時代に来ています。

ゲノム編集技術の食品への適用について、政府は安全であるとしていますが、実際には狙っていない遺伝子が破壊されてしまうオフターゲットの問題や、狙い通りの遺伝子が破壊できた場合でも想定外の変異が起きたり、想定外のタンパクが生成されたりする問題も報告されています。最も問題なのは表示なしに生産・流通が可能であるということです。

今回サナテックシード社は「ゲノム編集について表記する」と明言していますが、義務化されていない為、普通のタネだと思って購入したらそれがゲノム編集されていて、知らない間に栽培してしまう恐れがります。このままでは日本における食はゲノム編集されているかどうか、一切区別ができなくなり、生産者も消費者も知る権利、選ぶ権利が奪われてしまうことになります。政府は種苗や食品での遺伝子操作の有無の表示を義務化すべきだと考えます。



リバイオニア
エコサイエンス提供

ゲノム編集トマト 国内初の一般販売

ゲノム編集技術を使って品種改良したトマトの販売が15日、インターネット上で始まつた。ゲノム編集をした食品の一般販売は国内で初めて。昨年12月に、安全性などを担保する厚生労働省への届け出が受理され、出荷に向けた準備が進んでいた。筑波大発のベンチャー「サナテックシード」(東京)が開発した。ゲノム編集技術によって、ストレス軽減や血圧上昇を抑えられる効果があるとされる「GABA⁺A⁺B⁺A⁺」の蓄積量を通常より約5倍高めた。3kg約750円(税込み)などで販売する。厚労省の届け出制度では、食品に外部の遺伝子を挿入しない場合は、従来の品種改良と変わらないとみなされる。このトマトは遺伝子の挿入がないと判断されたため、安全性の審査は不要だった。技術で品種改良をしました」「ゲノム編集ラベルを貼って販売する。」などと書いた(市野塊)

参考記事: 2021年9月16日 朝日新聞より

○常総生協は「OKシードプロジェクト」に参加します！

一方で、政府もしっかりと根拠があれば、種苗や食品に「ゲノム編集ではない」と表示できることを認めています。種苗に「ゲノム編集ではない」表示ができるれば、その種苗を使った収穫物にも、その収穫物を使った加工食品にも表示ができ、食を守れることが可能になります。そこで種に携わる有識者が集まり、種苗の生産に関わる関係者、農家、加工業者、食の安全に関心のある消費者たちが相談を重ね、種苗や食品にゲノム編集されていないことを自主的に表示するOKシードマークを作り、それを拡げるOKシードプロジェクトを開始しました。OKシードマークを使う場合には使用申請・登録が必要になりますが、その使用は無料です。今後、このプロジェクトではOKシードマークを日本全国で拡げることで、ゲノム編集食品の問題について考える機会を作りだし、市民が食を選ぶ権利を守れるように活動をしていく予定です。常総生協としても種苗生産や食品生産・流通に関わる多くの方たちやすべての消費者にOKシードマークを拡げていきたいと考えております。



現在、地場生産者を中心に種・苗購入ルートの聞き取りを行っており、今後はゲノム編集ではないという「根拠」についてどのように証明できるか、検討を進めてまいります。種の問題についても、生産者任せにするだけでなく私たち消費する側も注視し、正しく選択できるよう理解を深めることが重要となります。

~終戦の日に寄せて~

今だから、読んでほしい「戦争体験」

Part.6 (最終回)



■7人目 江口昌子さん (前回9月4回の続き)

1935年東京生まれ。
1938年から終戦後まで満州で過ごす。
1946年帰国。
元、小・中学校の教諭。
「歴史教育者協議会」元会員。
1985年からつくば市在住。 常総生協組合員。

【小学校時代の思い出】

戦争が激化していった4年生のころ（1944年）、学校は「今日も明日も来なくていい」と、開店休業の状態になっていた。それでもある時、兵隊さんにあげるためにロシア人が耕した畑にジャガイモを植えに行ったことがあった。その農場の砂山にのぼり、担任の若い先生と17歳の女学生に教わって一緒に歌った「初恋」という石川啄木の歌は、今も色あせない思い出。その時初めて聞いた「初恋」という言葉は「何か美しいもののことだ」と感じた。戦時下であっても、皆、人の心を失ってはいなかつたんだと思う。

【戦地の兵士】

旧満洲のハイラル市に居た時の記憶で、今も忘れないことがある。関東軍で通訳官をしていた父を頼って、しばらく我が家に滞在していた20代の叔父が語ったことである。日中戦争（1937～）から戻った彼は、PTSD（心的外傷後ストレス障害）※1を患っていた。普段は無口な彼がある日語ってくれたのは「戦場での日々」のこと。

戦争といつても、絶えず戦闘をしていたわけではなかった。占領していたところで、何もしないでいることもあった。小高い山の上にあった駐屯地から村を見下ろして、「今日アレやるか」と誰かが言ったら、荷馬車で行き過ぎていった中国人を捕まえてきて、「試し切り」や「試し打ち」をやったという。その中国人は拙い日本語で、敬語のような言葉を使って「助けて」「自分は何もしていない」と命乞いをしたのだが。

父は私たちをそばに呼んで、その話を一緒に聞いた。たぶん父は、私たちに「戦争はダメだ」と言いたかったんだと思う。父はノモンハン事件の現地で「停戦協定」の通訳をしたり、731部隊にも繋がりがあった。父から聞いたこと・見たことを、いつか私は皆さんに伝えたいと思っている。

※1 PTSD (Post-Traumatic Stress Disorder) : 命の安全が脅かされるような出来事(戦争、天災、事故、犯罪、虐待など)によって強い精神的衝撃を受けることが原因で、著しい苦痛や、生活機能の障害をもたらしているストレス障害(wikipediaより)

近代日本と朝鮮・韓国の略年表より抜粋

1910 (ハ 43) 年	韓国併合
1919 (大正 8) 年	三・一独立運動
1931 (昭和 6) 年	満州事変
1932 (ハ 7) 年	上海事変
1937 (ハ 12) 年	日中前面戦争へ 『皇國臣民の誓詞』制定
1939 (ハ 14) 年	ノモンハン事件
1940 (ハ 15) 年	創氏改名を実施
1941 (ハ 16) 年	12月、日本、対米英開戦
1945 (ハ 20) 年	8月、日本敗戦。 朝鮮は北緯38度線で南北分断 米ソ両軍が分割占領
1948 (ハ 23) 年	8月、南に大韓民国樹立 9月、北に朝鮮民主主義人民共和国樹立
1950 (ハ 25) 年	朝鮮戦争勃発 (～1953年)
1965 (ハ 40) 年	日本、韓国と国交正常化
1972 (ハ 47) 年	7月、南北共同声明発表
2000 (平成 12) 年	6月、平壌で南北首脳会談 南北共同宣言発表

出典：中塚明著 「これだけは知っておきたい日本と韓国・朝鮮の歴史」

1945年8月15日～9歳で迎えた敗戦～

【ハルピン駅で知った日本の敗戦】

父が急に亡くなってしまった矢先、8/9の早朝、ソ連軍の空襲が街を襲った。母と私たちは着の身着のままに家を出た。紆余曲折してやっと乗った無蓋車（屋根のない貨車）は8/15、ハルピンの駅に停まっていた。母と私たちはその汽車の中で、日本の敗戦を知ることになった。大勢の日本人避難民を乗せた貨車は何十両も連なっていた。ある瞬間、辺りがシーンとなって「えっ」と思った時に、駅舎が「タタタタタッ」と擊たれる音がした。擊ったのは満洲の国軍。つまり傀儡政権の軍隊があつてそれが反乱を起こしたという形（日本の支配下に

あった満洲《中国》の軍隊が、日本の敗戦に乗じて反乱を起こしたということ）。それで日本の敗戦が分かつた。敗戦の知らせは車両から車両へと伝えられたらしい。

ちょうどその時2人の姉は、ハリレピンの知り合いのところへ物をもらいに行っていなかった。なかなか帰つてこなくて、あの時の怖さと言つたらなかった。

翌1946年8月末 日本へ帰国

【博多港での特別検診】

敗戦の翌年、ようやく船で帰国することができたけれども、着いた博多港では、直ちに「安堵」とはならなかつた。14歳以上の女性は「特別検診」を受けなければならず、母と3人の姉（小学6年の姉も！）は、その対象者だった。終戦直後から、満洲に残った日本人女性は、連れていかれて乱暴されるということが後を絶たなかつた。姉はこの検査のことは、戦後70年以上経つまで話せなかつたほどに「ものすごく失礼な検査だった」と言う。この「特別検診」の目的は性病が日本に蔓延するのを防ぐためで、妊娠していた場合には麻醉無しで堕胎手術※をされた。このことは記録にも残つてゐる。

※博多港には、博多引揚援護局が、博多検疫所および女子健康相談所を1946年4月25日に設置。妊娠、性病の検査、問診を行つて、選別された対象者を国立福岡療養所や二日市保養所に送致していた。麻醉薬が不足していたため、妊娠していた女性に麻醉無しで堕胎手術が行われ、死者も少なからず出た。1947年秋の施設閉鎖までに約400～500件の堕胎手術をおこなつたと推計される。（wikipediaより）

【今、「愛国心」を問われたら？】

私にとって、「国」とは「人」です。こうやって私と一緒にいる人たち、出会つた人々は限りなく大切な存在。この人たちが幸せに暮らしていく、そういう社会にしなければいけないと思うけれども、まだまだそうはなつてない。はた目には足りているように見えても貧富の差もあるではありませんか。言いたいことが言えず、ちょっとしたことでも忖度しなければ生きていけない人がたくさんいるんじゃないでしょうか。そういうものを変えていかなきやいけないなあつて思ひます。

それから、この国土というのは誰かの支配を受けすぎているから、わたし達のものに取り返さなきやいけない。沖縄の基地、本土にもたくさん基地があって、戦争の道具として私たちの国が使われているわけですから、これはなくさないといけないんじやないかと思ひます。これから生きていく子どもたちがのびのびと生きられるような、そういう国土を残したい。そのように、「人」・「子どもたち」を大切に思う気持ちを「愛国心」と呼ぶなら、そう言ってもいいと思つています。

今、とても大切なことの一つは、「反戦」「非戦」「抵抗」の運動が数多くあったことです。「戦争体験」の悲惨さだけを語り継ぐのではなく、「加害」を加えた国の人々を含めて、次の世代に伝えていきたいと思っています。

【戦争体験を聞かせていただいて】

今回の「戦争体験を聞く」という企画は、組合員の娘さんである都留和葉さんの卒業論文テーマ：「戦中戦後の教育の変化」の取材に同席する形で、生協組合員の体験者の方々からお話を伺いました。

戦時中を日本で生き延びた木村さん・和葉さんのお祖父さま・私の父、そして満洲から引き揚げてきた江口さんのお話を伺うことができ、ニュースとしては8月1回から全5回にわたるシリーズとなりました。分かったことの一つは、戦後生まれの私は、本当に「戦争の歴史を知らない」ということでした。教科書や年表からは知りえない市民の暮らしや心の有り様、それをしばつてきた国家体制というものを、その体験を通して知る機会をいただきました。そして、皆さんのお話で共通していたのは「戦争は二度と繰り返してはいけない」ということ。今、軍事費を増やしたり、憲法を変えて武力行使も可能にしようという動きがある中で、歴史に学ぶことの大切さをあらためて思ひました。

この体験を広く継承していく難しさを感じる一方で、今回、和葉さんのような若い世代（22歳！）の方が「戦争」と「教育」の問題に関心を持って調べ、自身の言葉で報告してくれたこと（9月1回Newsletter）は本当にうれしく、継承の一歩を踏み出せたと感じています。取材に応じてくださった皆様には貴重なお話を聞いていただき、誠にありがとうございました。

（職員 木本）

参考図書 | どちらも中塚明著 高文研より出版



- ① 「これだけは知っておきたい 日本と韓国・朝鮮の歴史」
- ② 「日本人の明治観をただす」

理事会よもやま通信 第21号

常総生協はみんなの「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します

発行 常総生活協同組合理事会
TEL0297-48-4911
FAX0297-45-6675

生協まつりオンラインで開催決定！

コロナ禍となる前は毎年恒例だった常総生協まつり…。昨年は、残念ながら開催することはできませんでした。代替案として、つながろうプロジェクトと題して、動画配信や生産者さんの声を文章で配布するなどして、交流を試みましたが、どこか一方通行になってしまった側面もありました。今年こそはなんとか感染対策して、どうにか開催できなかと理事会内で計画を練っていました。しかし、今月からの緊急事態宣言発令に伴い、残念ながらリアル開催は中止にせざるをえなくなってしましました。

ここで諦める常総生協ではありません。今年は、オンラインとカタログ紙面を連携し、ハイブリッド開催していくます。本部での開催時は、直接生産者さんと商品を手に会話したり、新たな商品に出会ったり、スタンプラリーに参加したりと、様々な過ごし方をすることができました。それらすべてを実現することはできませんが、実際会えなくとも双方向のつながり深めることはできるはずです。

オンラインでは、時間割を決めて、zoomミーテイングで生産者さんとやり取りを深めています。紙面では、生産者さんとのお手紙のやり取りや商品の紹介を通して交流していきたいと思います。

新しい生活様式をと呼ばれる世の中で、常総生協での活動様式も新しいスタイルを採用していかなければならぬ時代となりました。組合員の皆さんの中にはオンラインは初挑戦という方もいると思います。ここは一つ、新たな挑戦をしてみませんか。理事一同、全力で応援します。うちの子どもたちは休校でもうずっと家にいます。外に出たり、友達と遊ぶのが一番楽しい年頃です。それが許されな

い時代です。お祭りですから、参加はお子さんでも大歓迎です。普段お話しできない生産者さんに商品の質問をしたり、新商品のお願いをしたりして、少しでもお子さんのお好きを満たすことのできる時間としていただけたら、本望です。まつりの終盤には、全員参加のゲーム大会も企画しています。まつりの終盤には、全員参加のゲーム大会も企画しています。何もできないと諦めるのではなく、何もできないところからはじめていく第一歩として、是非皆さん、11月20日は「常総生協まつり」と予定にご記入いただき、一緒に楽しい一日を過ごしましょう！

^JOSOワイドはじめました^

9月4日のニュースレター カタログを見て驚かれた方もいるか思います。私達も議事として初見した時、同じ気持ちでした。夜に臨時理事会を開き、それぞれの思いを語り、職員さんの熱い思いも聞き、長時間意見交換をしました。結論から言うと、組合員のニーズがあるならばやってみようということになりました。「買い物は投票だ」という本があります。生協は会社ではありません。職員さんが組合員の声を聴いて商品を選定してくださっていますが、本来商品は組合員が選ぶものです。職員さんは私たちの多種多様なニーズに答えようとしてくださっています。私達組合員はどの商品を選ぶかで私たちの思いを伝えることができます。もちろんご意見欄で要望を伝えることもできます。これから時代を常総生協がどう生き抜いていくかを決めるのも組合員です。

是非、生協まつりも一つのツールとして、価格だけではわからない生産者さんや商品の思いを身近なものに感じていただき、みなさまの清き一票を投じてくださいね。（中安）

『理事会よもやま通信』へのご意見・ご感想は、OCR用紙の「意見・要望・連絡欄」、ネット注文の方は「ご意見のページ」にご記入をお願いいたします。



常総生協ファンページ
不定期更新中

常総生協が好きだー！

